

新型コロナウイルス (COVID-19) 特集～当センターの対応～

COVID-19 振り返り

当センターは、特定感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）への対応をいち早く行ってまいりました。最初に疑似症例を受け入れた2020年3月から約3年間、国や大阪府の要請にも適宜対応しながら、専用病床を設け多くのCOVID-19症例を受入れるなど、医師や看護師をはじめとするさまざまな医療スタッフ、事務職員、関係者が総力を上げて対応してまいりました。

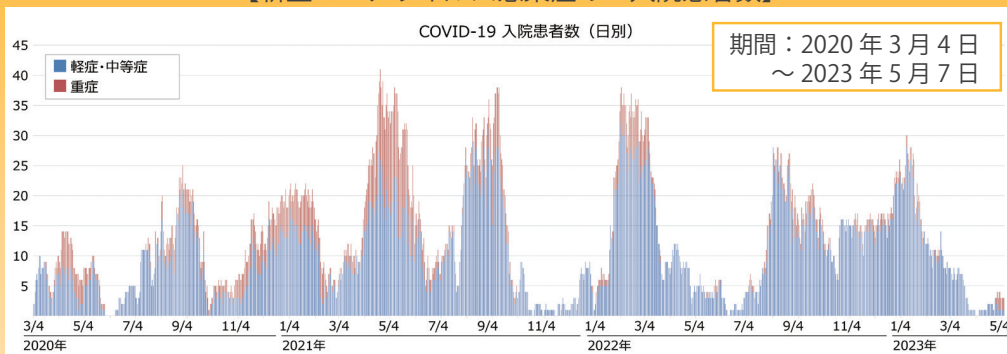
地域住民の皆様におかれましても、この間、マスクの着用、検温の実施など、さまざまな制限やご協力をお願いしてまいりました。そんな中、医療スタッフに対する心温まるお言葉や物資のご寄附を賜るなど、皆様のご支援のおかげにて、この難局をどうにか乗り越えることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2023年5月8日以降は感染症分類上、5類相当の取り扱いとなり、行動制限等も緩和される傾向にあります。ただし、未だ感染力は収まることなく推移しております。まだまだ当センター内では、皆様にマスクの着用をお願いしておりますし、入院患者様の面会も一定の条件下での制限を継続している状況です。ご不便をおかけすることもあると思っておりますが、引き続き、ご理解ご協力よろしくお願いたします。

この3年間、COVID-19診療のため、一般診療に制限を設けなければならない時期もあり、ご迷惑をおかけしたこともあるかと思っております。これからは、当センターの有する機能・資源を最大限に活用し、医療活動を通じて地域に貢献してまいります。今後とも引き続きご支援よろしくお願申し上げます。

医療マネジメント課長 兼 地域医療連携室長 中西 賢
兼 患者サポートセンター副センター長

【新型コロナウイルス感染症のべ入院患者数】



2023年度 関西国際空港 航空機事故医療救護活動部分訓練

2023.06.22 実施

危機管理室長 兼 救命診療科部長 成田 麻衣子

当センターは、関西国際空港の直近の災害拠点病院であり、航空機事故発生時の対応計画である「関西国際空港緊急計画」の参画医療機関となっています。関西国際空港では、毎年、関西国際空港緊急計画に参画する医療関係者が医療活動の習熟及び、円滑な医療体制を構築することを目的とした「航空機事故医療救護活動部分訓練」を実施しています。これは、文字通り「部分」的な訓練であり、トリアージエリア及び救護所エリアでの活動の訓練です。

今年度は、6月22日に「2023年度航空機事故医療救護活動部分訓練」が開催され、当院からは32名が参加しました。参加者の内訳は、ファシリテーター11名（災害時医療対策委員会）、プレイヤー21名（初期研修医及び救急外来・救命初療室看護師、救命診療科・産婦人科専攻医）となっています。プレイヤーとしての参加者の大半は、「りんくう総合医療センター災害対応マニュアル」で多数傷病者受け入れの際にトリアージ



を担うことが事前に指定されている職員及び、関西国際空港での航空機事故発生時に医療チームとして派遣される職員となります。今年度は、災害時医療についての講義をe-learningで事前学習した上で、当日は、トリアージタグの記載方法の訓練、トリアージ訓練（1次+2次）、救護所医療活動訓練、救護所運用訓練、搬送トリアージ訓練（一部見学のみ）が行われました。このような訓練に参加することにより、航空機事故発生時に派遣される医療チームとしての災害時医療活動及び、病院で展開される災害時医療活動がより円滑に行えるようになって考えています。